

平成20年3月期 決算説明会

- 1 連結業績の概要
- 2 連結業績について
- 3 中期経営計画の進捗状況
- 4 平成21年3月期 業績予想
- 5 その他の情報

平成20年5月26日

当資料に記載されている将来の見通しなどについては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成されたものです。

当社を取り巻く内外の経済情勢、業界動向、商品需給、新技術の進展などにより、今後において業績見通しの変動するなどのリスクや不確実性を含んでおります。

従いまして、投資判断を決定する場合には、本資料の将来の見通しのみに依拠することは、お控えくださるようお願い申し上げます。

また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。

1 連結業績の概要

連結業績概要 前年同期比

売上高 金融機関市場、海外市場、自動販売機市場が牽引し、順調に推移。

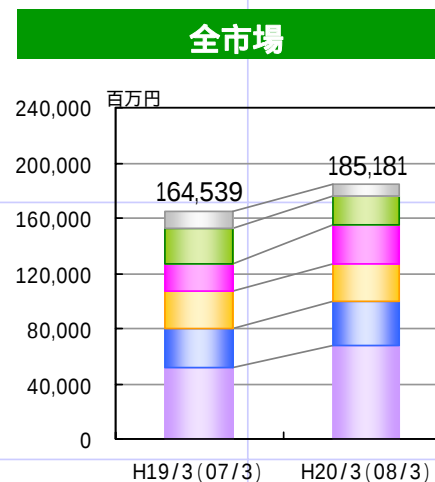
利益 売上高の増加、並びに原価率、販管費率の低減により利益率が改善。

(百万円)	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比	平成20年3月期予想 (平成19年11月7日修正)
売上高	164,539	185,181	+12.5%	185,000
営業利益	12,960 (7.9%)	22,826 (12.3%)	+76.1%	21,000 (11.4%)
経常利益	13,406 (8.1%)	21,582 (11.7%)	+61.0%	21,000 (11.4%)
当期純利益	6,461 (3.9%)	11,711 (6.3%)	+81.3%	13,000 (7.0%)

2 連結業績について

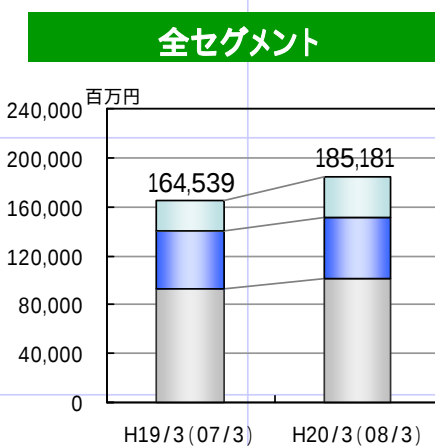
市場別・セグメント売上高

市 場	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
金融機関	51,826	68,030	+31.3%
海 外	28,476	31,784	+11.6%
流通・交通	26,557	26,838	+1.1%
自動販売機	19,388	27,882	+43.8%
遊 技	26,202	21,558	17.7%
一 般	12,090	9,089	24.8%

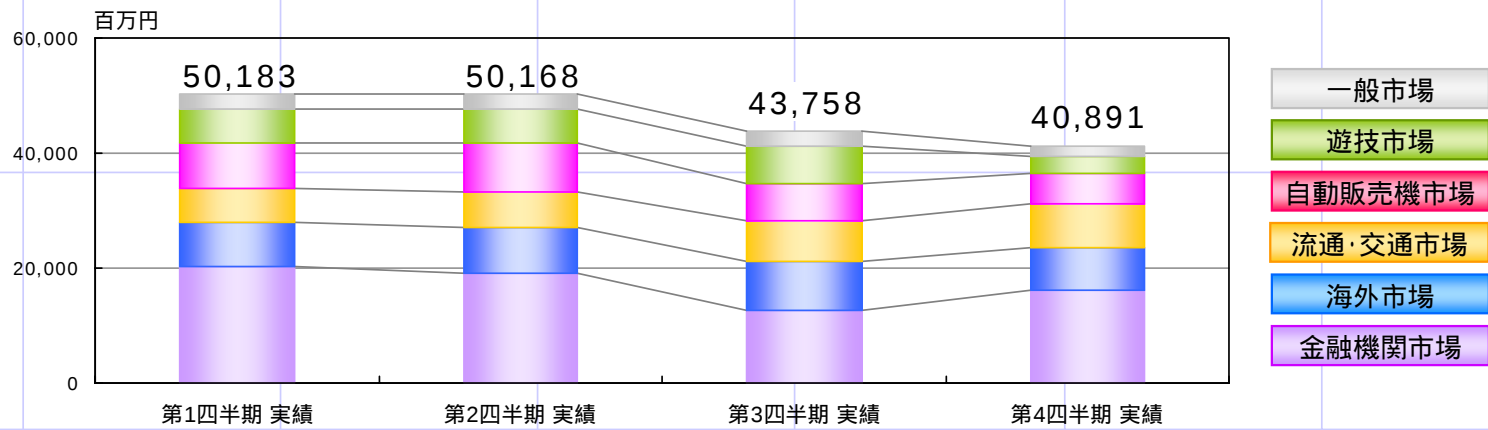


(百万円)

セグメント別	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
貨幣処理機 及び貨幣端末機	92,829	101,710	+9.6%
自動販売機 及び自動サービス機器	47,535	50,077	+5.3%
その他の商品 及び製品	24,174	33,393	+38.1%



四半期毎の市場別売上高



平成20年3月期	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第4四半期 実績	年間
国内金融機関	20,187 (40.2%)	19,224 (38.3%)	12,536 (28.6%)	16,083 (39.3%)	68,030 (36.7%)
海 外	7,821 (15.6%)	7,902 (15.8%)	8,707 (19.9%)	7,354 (18.0%)	31,784 (17.2%)
金融機関 合計	28,008 (55.8%)	27,126 (54.1%)	21,243 (48.5%)	23,437 (57.3%)	99,814 (53.9%)
流通・交通	5,821 (11.6%)	6,107 (12.2%)	7,036 (16.1%)	7,874 (19.3%)	26,838 (14.5%)
自動販売機	7,798 (15.5%)	8,432 (16.8%)	6,410 (14.6%)	5,242 (12.8%)	27,882 (15.1%)
遊 技	6,054 (12.1%)	6,040 (12.0%)	6,469 (14.8%)	2,995 (7.3%)	21,558 (11.6%)
一 般	2,502 (5.0%)	2,463 (4.9%)	2,599 (5.9%)	1,525 (3.7%)	9,089 (4.9%)
合 計	50,183	50,168	43,758	40,891	185,181

()は構成比を表しています。

● 基幹商品の需要が拡大

- ・金融機関の業績向上と併せて、現金取扱い業務の人的ミス削減に関する設備投資意欲が向上。
- ・郵政民営化に伴う機械化促進と内部統制強化による需要拡大。

【前年同期比】 31.3%増

業績に影響した主な製品

- ↑ オープン出納システム「WAVEシリーズ」
- ↑ 窓口用入出金システムのユニット
- ↑ 重要鍵管理機KBシリーズ



オープン出納システム
WAVEシリーズ



窓口用入出金システム
のユニット



重要鍵管理機
KBシリーズ他

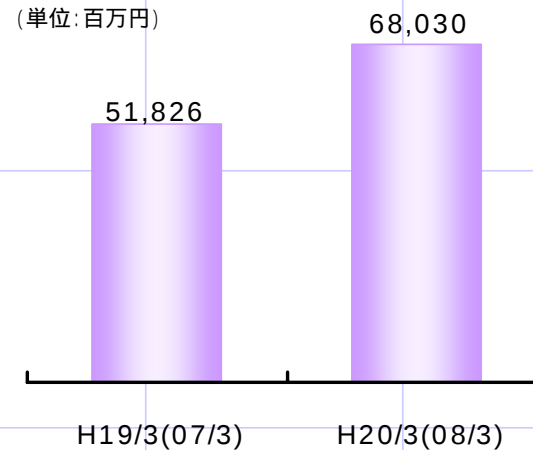
市場	平成18年3月期 (2006年3月期)	平成19年3月期 (2007年3月期)	前年同期比
金融機関	51,826	68,030	+31.3%

総売上高比率



連結売上高

(単位: 百万円)



● 欧州でシステム製品の需要が拡大

欧州でのユーロ通貨に関する偽札対応や営業店での正損分離ニーズの高まりから、ATMの需要やシステム商品の需要が拡大。

【前年同期比】 11.6%増

業績に影響した主な製品

- ↑ 窓口用紙幣入出金機「RBUシリーズ/RZシリーズ」
- ↑ ATM用紙幣入金ユニット「UDシリーズ」
- ↑ 紙幣整理機「UWシリーズ」



紙幣入出金機
RBUシリーズ



紙幣入出金機
RZシリーズ



ATM用紙幣入金ユニット
UDシリーズ



紙幣整理機
UWシリーズ

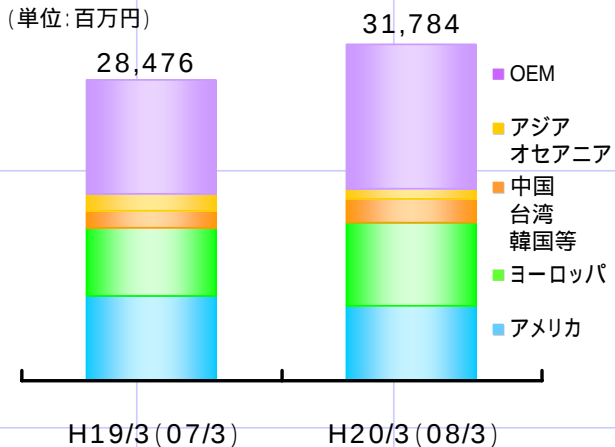
市場	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
海外	28,476	31,784	+11.6%

総売上高比率

17.3% → 17.2%

連結売上高

(単位: 百万円)



● レジつり銭機が堅調

従業員のパート・アルバイト化、営業時間の延長への対策として、つり銭機の導入が定着し、レジ周辺機器の需要は堅調。入金機も新紙幣発行後投資を抑制していた市場が活性化し、需要増加。

【前年同期比】 1.1%増

業績に影響した主な製品

↑ 入金機「DSSシリーズ他」

↓ レジつり銭機「RT・RADシリーズ」



レジつり銭機
RT・RADシリーズ



入金機
DSSシリーズ他

市場	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
流通・交通	26,557	26,838	+1.1%

総売上高比率

16.1% 14.5%

連結売上高

(単位: 百万円)

26,557

26,838

H19/3(07/3)

H20/3(08/3)

自動販売機市場

● 自動販売機の販売が増加

主要製品のたばこ販売機の積極的な営業活動により、成人識別機能付きたばこ販売機の需要(販売及び改造)が堅調に推移。

【前年同期比】 43.8%増

業績に影響した主な製品

↑ たばこ自動販売機

たばこ販売機
TNRシリーズ



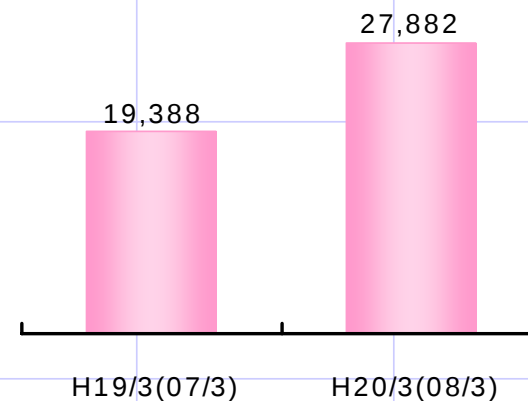
市場	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
自動販売機	19,388	27,882	+43.8%

総売上高比率



連結売上高

(単位: 百万円)



● 業界全体の低迷により投資が冷え込む

パチンコホールは、新基準のパチスロ機の入替えに設備投資を集中させ、周辺設備への投資を見送る傾向にあったが、カード関連機器のみ堅調に推移。

【前年同期比】 17.7%減

業績に影響した主な製品

↓ 台間紙幣メダル貸し機

↓ 紙幣両替機



台間メダル貸し機
JMM - 20/20A



高額紙幣両替機
ER - 120 - E

市 場	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
遊 技	26,202	21,558	17.7%

総売上高比率

15.9%

11.6%

連結売上高

(単位: 百万円)

26,202

21,558

H19/3(07/3)

H20/3(08/3)

● 自動契約受付機と病院市場等が減少

消費者金融向け自動契約受付機や病院向けの診療費支払機の需要が減少。

唯一、統一地方選、参院選などの需要を取り込み選挙関連機器が堅調に推移。

【前年同期比】 24.8%減

業績に影響した主な製品

↑ 自書式投票用紙分類機「GTSシリーズ」

↓ 自動契約受付機「FVKシリーズ」

↓ 診療費支払機「FKシリーズ」



自書式投票用紙分類機
GTSシリーズ



自動契約受付機
FVKシリーズ



診療費支払機
FKシリーズ

市 場	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
一 般	12,090	9,089	24.8%

総売上高比率

7.3%

4.9%

連結売上高

(単位: 百万円)

12,090

9,089

H19/3(07/3)

H20/3(08/3)

● 成人識別関連の改造作業が堅調

成人識別機能付きたばこ販売機の改造作業は順調に推移。貨幣関連の保守売上高は、システム商品は増加したが、自動契約受付機が減少し、横ばいで推移。

【前年同期比】 21.1%増

業績に影響した主な製品

↑ たばこ自動販売機の成人識別改造



たばこ販売機の改造風景

【たばこ販売機の改造状況】

・改造実績 約113,000件
(平成20年3月末でほぼ完了)

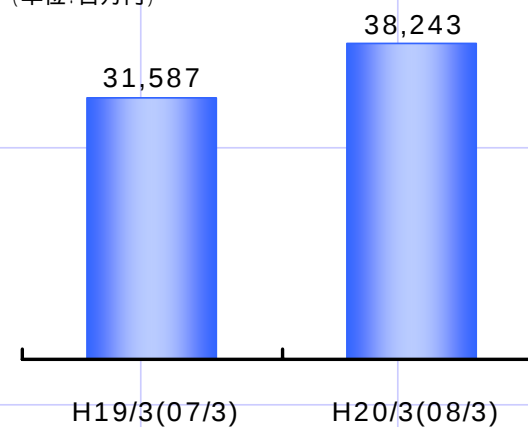
市場	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	前年同期比
保守売上高	31,587	38,243	+21.1%

総売上高比率

19.2% → 20.7%

売上高

(単位: 百万円)



損益計算書

(単位: 百万円)

(百万円)	平成19年3月期 (2007年3月期)	百分比 (%)	平成20年3月期 (2008年3月期)	百分比 (%)	増 減
売上高	164,539	100.0	185,181	100.0	20,642
売上原価	108,627	66.0	117,066	63.2	8,439
販管費	42,951	26.1	45,288	24.5	2,337
営業利益	12,960	7.9	22,826	12.3	9,866
営業外収益	1,719	1.0	1,382	0.8	337
営業外費用	1,272	0.8	2,626	1.4	1,354
経常利益	13,406	8.1	21,582	11.7	8,176
特別利益	173	0.1	187	0.1	14
特別損失	3,980	2.4	1,571	0.9	2,409
税引等調整前当期純利益	9,599	5.8	20,198	10.9	10,599
法人税等調整額	3,127	1.9	8,451	4.6	5,324
当期純利益	6,461	3.9	11,711	6.3	5,250

原価率: 生産・開発段階のコスト削減活動の成果により低下

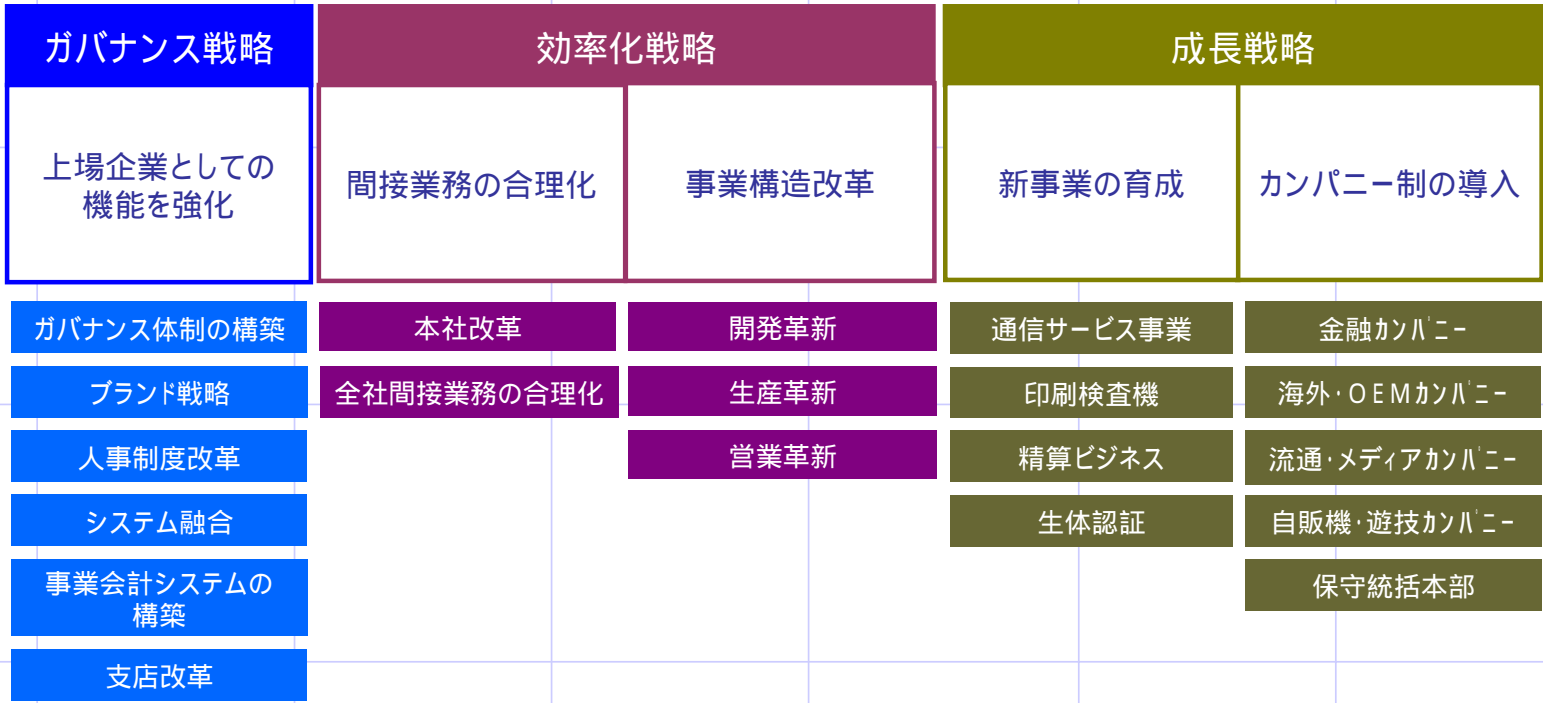
販管費率: 諸経費削減などの成果により改善

営業外費用: 不要部品の廃却損などが発生

特別損失: 投資有価証券の評価損や設備機器などの固定資産売却損を計上

3 中期経営計画の進捗状況

中期経営計画の概要



統合による企業価値向上の基盤を確立する
“合併効果の実現”

ガバナンス戦略

ガバナンス戦略

上場企業としての機能を強化

ガバナンス体制の構築

- ・経営の監督機能と業務執行機能を分離・強化
- ・リスクマネジメント体制の構築



ブランド戦略

- ・社内外へコーポレートロゴの浸透策を展開中



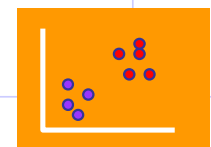
人事制度改革

- ・詳細設計が完了し、新制度への移行準備。



システム融合

- ・13のシステムを対象に融合。詳細設計に着手。
(平成19年度に2システム稼動)

事業会計システムの
構築

- ・基本設計が完了し、詳細設計に着手。



効率化戦略

効率化戦略

事業構造改革

開発構造革新

- ・品質3倍、コスト30%削減を図り
ながら開発効率をアップさせる。
(従来機種比較)

主な項目	目標	H19年度実績	H20年度目標
開発期間の短縮	30%減	27%減	28%減
開発費の削減	30%減	38%減	39%減
研材費の削減	50%減	52%減	54%減

生産革新

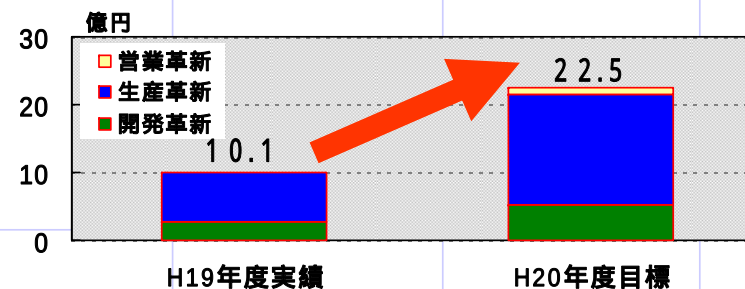
- ・コストダウン活動の推進
【主な施策】
海外生産・調達拡大
集中購買等
生産効率の向上



光栄電子工業(蘇州)有限公司
第二期工場

コストダウン 金額	H19年度		H20年度
	目標	実績	目標
	4.5億円	7.3億円	16.3億円

H20年度 海外生産・調達比率目標 10%以上

事業構造改革
コスト削減効果の推移

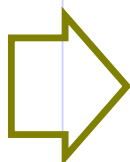
成長戦略

カンパニー制の導入、新事業の育成

カンパニー制の導入

・カンパニー制による経営スピードの強化

- ・金融カンパニー
- ・海外・OEMカンパニー
- ・流通・メディアカンパニー
- ・自販機・遊技カンパニー
- ・保守統括本部



・海外事業の基盤強化

《海外売上高比率》

平成18年度実績:約17% 平成20年度予定:約24%

・国内大口需要への対応

郵政民営化需要に対する提案活動



新事業の育成

1. 生体認証

1) ニュー・スタイル・ドアの販売(H20.5月予定)

2) 顔認証システムの販売(H20.6月予定)

2. 通信サービス事業

平成18年度実績:約2億円 平成20年度予想:約5億円

3. 精算ビジネス

ショッピングセンター9店舗で展開中。

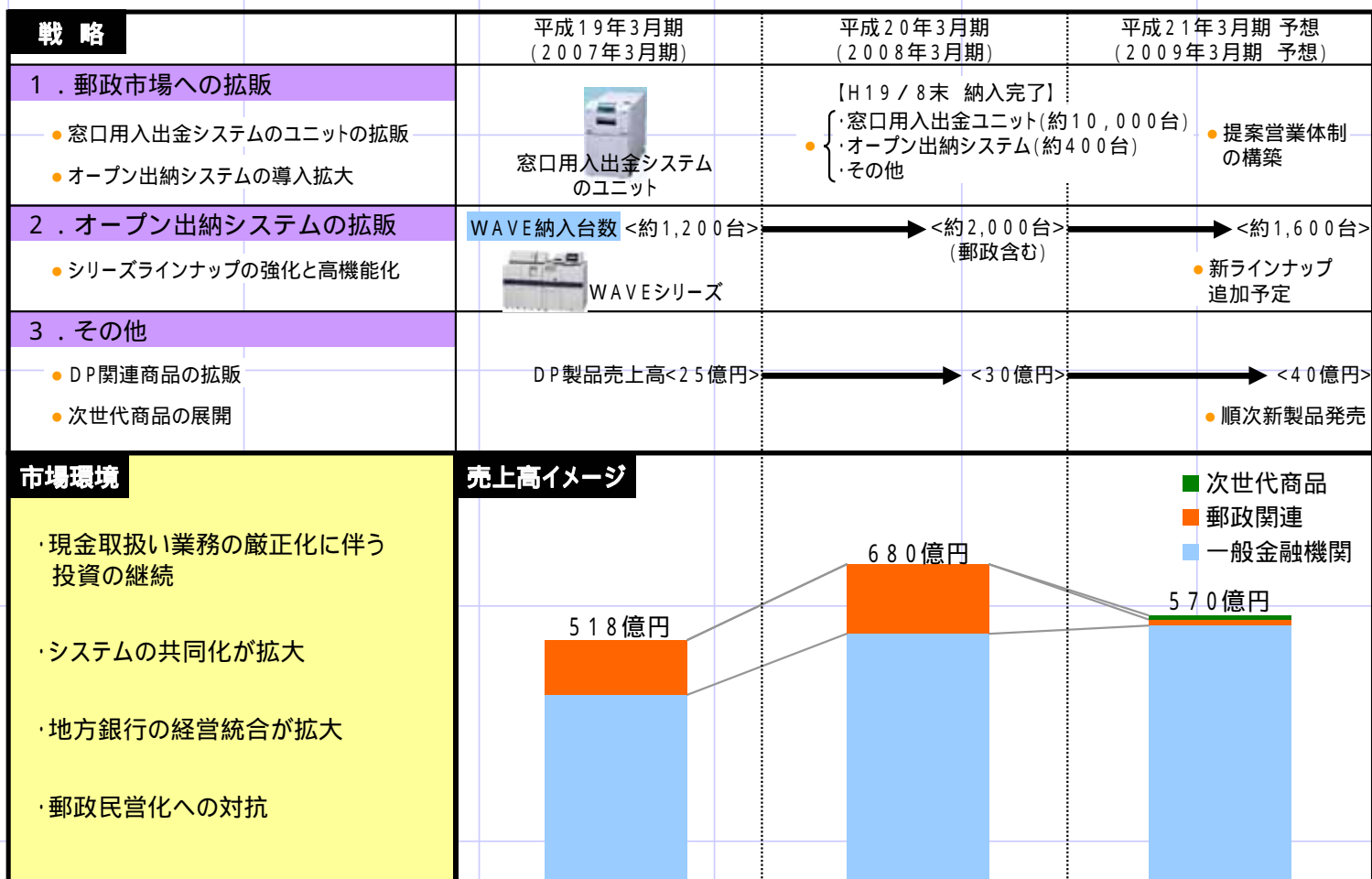
3. 印刷検査機

ファーストユーザーに導入。販売体制を構築。

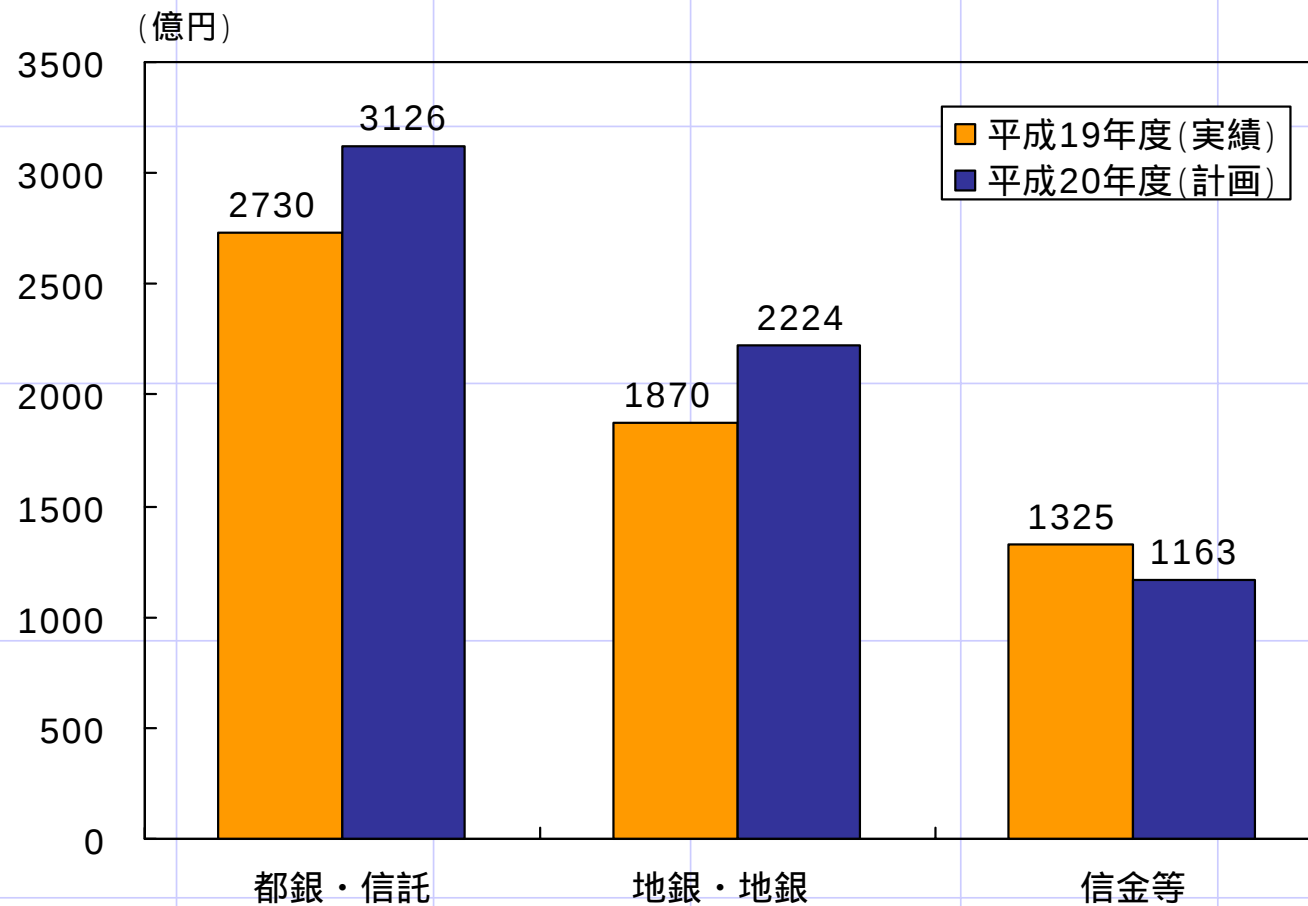


4 平成21年3月期 業績予想

● ビジネスチャンスの拡大に伴うシェアアップ



● 平成20年度 金融機関 設備投資額状況(前年度対比) 「2008年3月 日銀短観」より当社作成



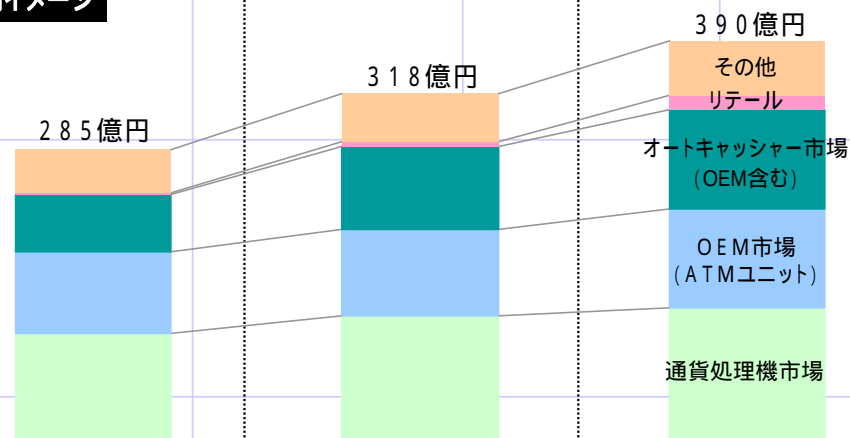
● 市場開拓と販売促進

戦 略	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	平成21年3月期 予想 (2009年3月期 予想)
欧州販売体制の強化 ● 欧州直販網の整備	オートキャッシュャー <スペイン・イタリアの大口需要対応> ● オーストリアに出店 ● イギリスに出店	● ライス社での製品組立対応 ● フランスに出店	● 新市場開拓
A T Mユニットの拡販 ● 価格対応力の強化	UDシリーズ販売台数 <約8,500台>	<約11,000台>	● 商品ラインアップ追加 <約14,000台>
B R I C s 市場への拡販 ● 商品ラインナップの強化	ブラジル対応 小型紙幣入金機 GFRシリーズ	ロシア対応 紙幣入金整理機 UWシリーズ	
その他 ● リテール関連商品の拡販	新製品投入 ● R Zシリーズの展開		

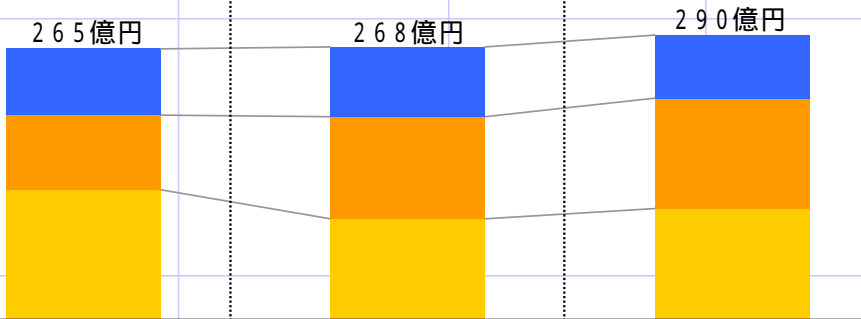
市場環境

1. 偽造紙幣の増加及び世界各国での相次ぐ改刷により、偽券排除機能のニーズが拡大。
2. 市中の古い紙幣・汚れた紙幣を回収する動きに拍車がかかり、正損選別機のニーズが拡大。
3. B R I C s を含めた新興国の購買力が拡大。
4. 厳正化・効率化(資金・業務)のニーズが拡大。

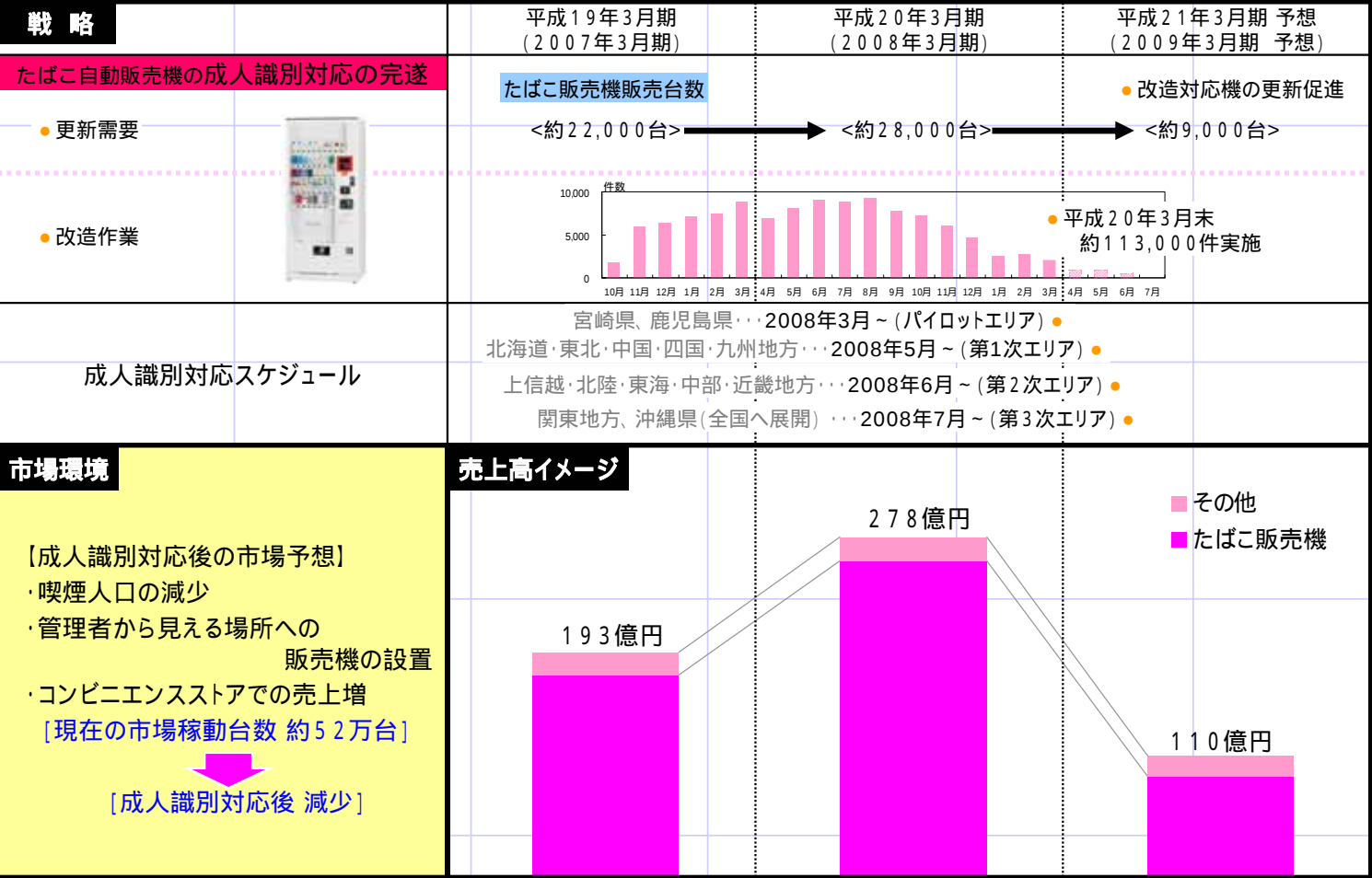
売上高イメージ



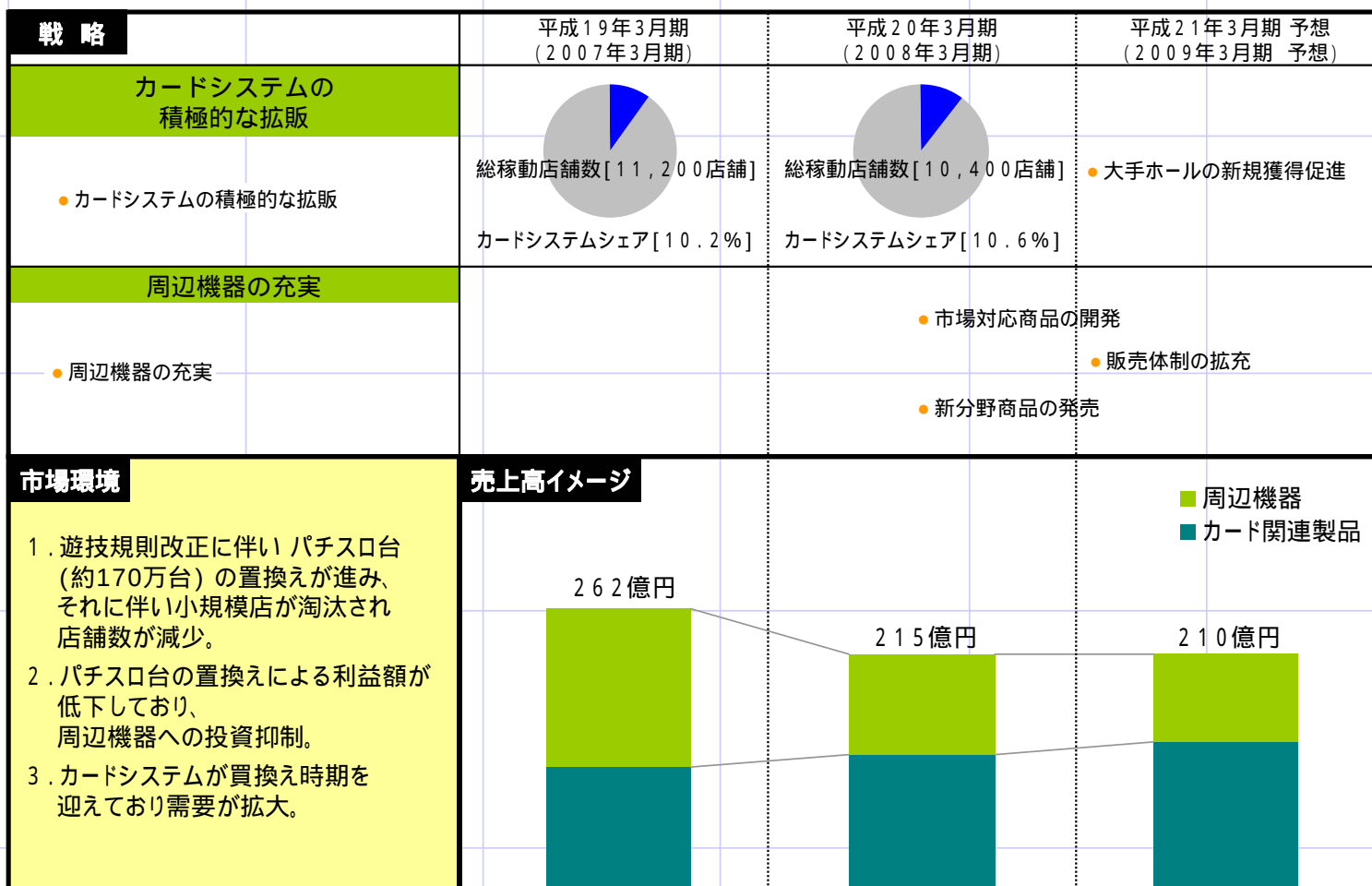
● レジつり銭機市場・警送市場の拡販

戦 略	平成19年3月期 (2007年3月期)	平成20年3月期 (2008年3月期)	平成21年3月期 予想 (2009年3月期 予想)
フロント市場の拡販 - レジつり銭機の拡販 - 無人レジシステムへのユニット供給 	- 高機能タイプを ・大手スーパー ・専門店に納入 - 国内メーカーにユニット供給	- 新商品の開発 - 大口ユーザーの獲得 - 無人レジの検討案件への対応	新製品発売予定
警送市場の拡販 警送会社による現金回収ニーズの高まりへの対応 		現金センターへの営業強化	新製品発売予定
市場環境 1. レジつり銭機市場 1店舗当たりの売上金が少ない 業態でのレジつり銭機の需要拡大 - セルフレジの需要拡大 2. 警送市場 - 警送会社間での競争激化 - 入金機の増設により、 現金センター関連機器の需要拡大	売上高イメージ	 ■ 警送 ■ 流通一般 ■ フロント	

● たばこ販売機の成人識別対応の完遂



● ホール向けカードシステム製品の拡販



● 新事業の創造

■ セキュリティ関連製品

【2008年5月以降 発売予定製品】



顔認証システム

ニュー・スタイル・ドア
(ユニット供給)

ゲートロボット

新企画商品

・共連れや成り済ましを
防止するゲートを開発

■ フィービジネス

精算ビジネス・9店舗で事業を展開中
(前年度比+3店舗)通信サービス事業各分野にソリューションを提案
・電子決済
・証券・業務支援など

■ 印刷検査機

・ラインナップを強化
・ノウハウの蓄積
・販売体制を構築中

平成21年3月期 業績予想

売上高 郵政民営化に関する需要、たばこ販売機の大口需要がなくなり、前年同期から減少。

利益 原価率・販管費率UPの影響を受け減少。

(百万円)	平成20年3月期 (2008年3月期)	平成21年3月期 (2009年3月期)	前年同期比
売上高	185,181	165,000	10.9%
営業利益	22,826 (12.3%)	15,000 (9.0%)	34.3%
経常利益	21,582 (11.7%)	15,000 (9.0%)	30.5%
当期純利益	11,711 (6.3%)	10,000 (6.1%)	14.6%

4

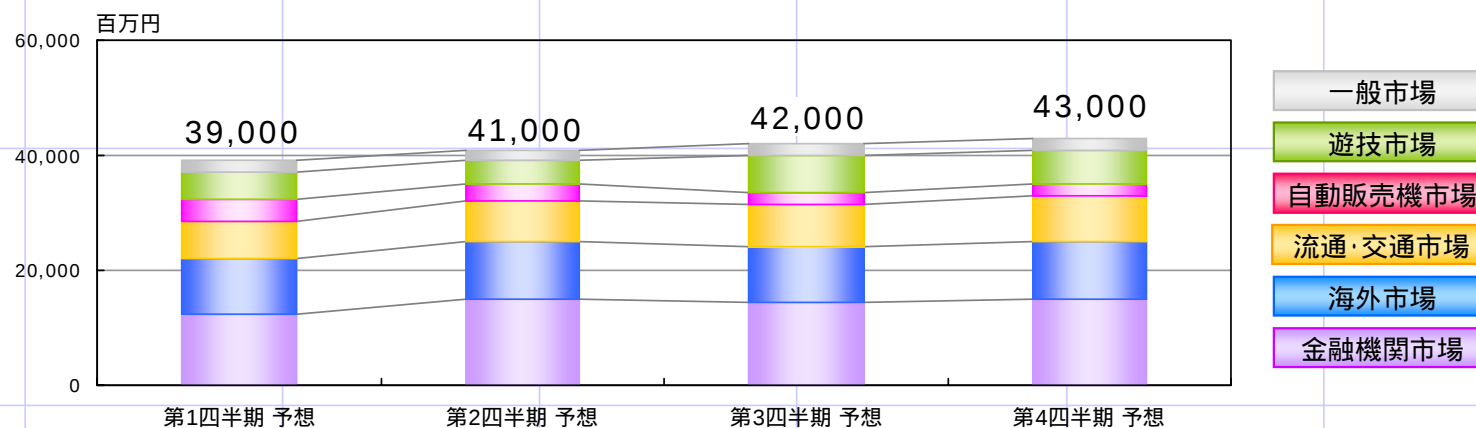
平成21年3月期
業績予想

平成21年3月期 業績予想 (市場別売上高)

GLORY

(百万円)	平成20年3月期 (2008年3月期)		平成21年3月期 (2009年3月期)		
	売上高	構成比	売上高	構成比	前年同期比
金融機関	68,030	36.7%	57,000	34.5%	16.2%
海 外	31,784	17.2%	39,000	23.6%	+22.7%
流通・交通	26,838	14.5%	29,000	17.6%	+8.1%
自動販売機	27,882	15.1%	11,000	6.7%	60.5%
遊 技	21,558	11.6%	21,000	12.7%	2.6%
その他	9,089	4.9%	8,000	4.8%	12.0%

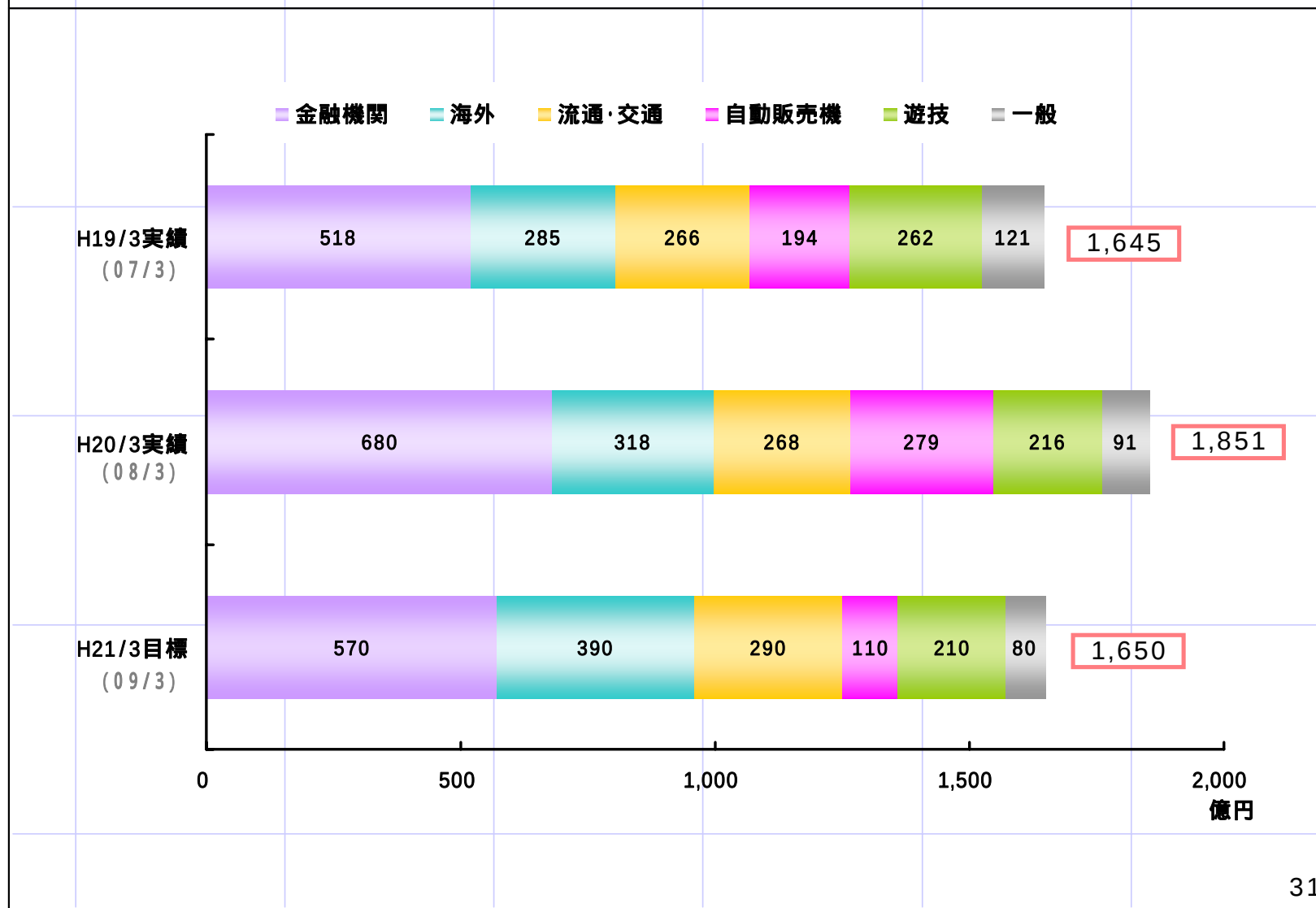
四半期毎の市場別売上高



平成21年3月期	第1四半期 予想	第2四半期 予想	第3四半期 予想	第4四半期 予想	年間予想
国内金融機関	12,500 (32.0%)	15,000 (36.6%)	14,500 (34.5%)	15,000 (34.9%)	57,000 (34.6%)
海 外	9,500 (24.4%)	10,000 (24.4%)	9,500 (22.6%)	10,000 (23.2%)	39,000 (23.6%)
金融機関 合計	22,000 (56.4%)	25,000 (61.0%)	24,000 (57.1%)	25,000 (58.1%)	96,000 (58.2%)
流通・交通	6,500 (16.7%)	7,000 (17.1%)	7,500 (17.8%)	8,000 (18.6%)	29,000 (17.6%)
自動販売機	4,000 (10.3%)	3,000 (7.3%)	2,000 (4.8%)	2,000 (4.7%)	11,000 (6.7%)
遊 技	4,500 (11.5%)	4,000 (9.7%)	6,500 (15.5%)	6,000 (13.9%)	21,000 (12.7%)
一 般	2,000 (5.1%)	2,000 (4.9%)	2,000 (4.8%)	2,000 (4.7%)	8,000 (4.8%)
合 計	39,000	41,000	42,000	43,000	165,000

() は構成比を表しています。

市場別売上高の推移



5 その他の情報

● 自己株式の取得について

自己株式取得の理由…機動的な資本政策の遂行および株主還元策の一環として

	第1回目	第2回目
1. 取得に係わる事項の内容		
1) 取得した期間	平成19年5月18日 ～ 8月16日	平成20年2月7日 ～ 3月18日
2) 取得した株式の種類	当社普通株式	当社普通株式
3) 取得した株式の総数	約139万8,000株 (発行済株式総数の1.88%)	約105万4,300株 (発行済株式総数の1.44%)
4) 株式の取得価額の総額	約39億9,590万円	約26億5,360万円
2. 自己株式消却		
2) 消却した株式の数	約139万8,000株 (発行済株式総数の1.88%)	-
3) 消却日	平成19年11月9日	-
4) 消却後の発行済株式総数	72,838,210株	-

配当予想について

● 平成20年3月期の配当予想について

配当方針

自己資本をベースとした1株当たり年間28円の配当を基準とし、連結業績等の動向も勘案した利益還元を行ってまいります。

● 配当基本方針の一部変更について

配当方針

自己資本をベースとした1株当たり年間30円の配当を基準とし、連結業績等の動向も勘案(連結当期純利益の25%程度を目処)した利益還元を行ってまいります。

1株当たりの配当金

	中間期末	期 末	年 間
平成20年3月期	14円00銭	26円00銭	40円00銭
	普通配当14円00銭	普通配当14円00銭 特別配当12円00銭	普通配当28円00銭 特別配当12円00銭
平成21年3月期 予想	15円00銭	-	-